

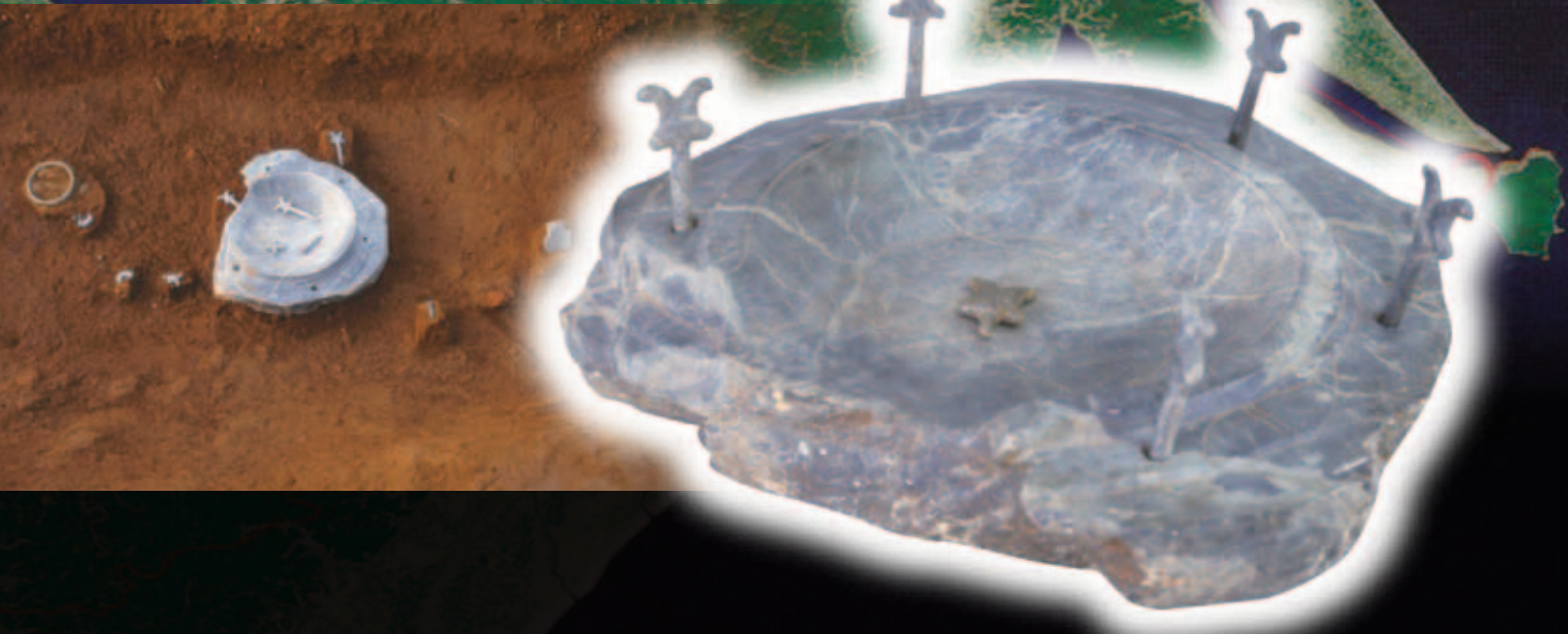
平成23年度出土遺物巡回展 一房総発掘ものがたり一

古墳に 眠る

いし

まくら

石枕



【主催】(財)千葉県教育振興財団

千葉県立房総のむら／千葉県立関宿城博物館／館山市立博物館／
袖ヶ浦市郷土博物館／千葉県立現代産業科学館／千葉県立中央博物館

ごあいさつ

千葉県では、年間450件ほどの発掘調査が行われ、房総各地の歴史と文化を伝える貴重な成果が数多く得られております。

こうした貴重な成果を、多くの皆様にわかりやすくご覧いただくため、平成13年度から出土遺物巡回展「房総発掘ものがたり」を開催しております。10回目を迎えた本年度は、房総の古墳時代を語る上で欠かすことのできない遺物の中から、古墳出土の石枕に注目し、「古墳に眠る石枕」と題しまして、集中する地域の例や埋葬に伴う儀礼などを具体的にご紹介いたします。

また、昨年度話題になった埋蔵銭の復元模型や平成22年度に県指定有形文化財となった吉原三王遺跡の多くの墨書土器もご紹介してまいります。発掘調査によって掘り起こされた貴重な資料を間近にご覧いただき、房総の歴史や文化を知る上での一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本展覧会の開催に当たり、ご協力をいただきました関係機関並びに関係者の皆様に、心からお礼申し上げます。

平成23年7月2日

財団法人 千葉県教育振興財団
文化財センター長 大原 正義

ご協力いただいた方々と機関（敬称略）

朝比奈竹男・小倉博・菊池敏記・喜多裕明・潮崎誠・白井久美子・杉山晋作・辻史郎・仲村元宏・長原亘・沼澤豊・根本岳史・原田享二・平野功・平野悟・正木茂樹・美濃口紀子・矢戸三男・吉田敬
岡山県立博物館・関西大学博物館・熊本市立熊本博物館・大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館・千葉県立中央博物館大根分館・豊岡市出土文化財管理センター・芝山町立芝山古墳はにわ博物館・成田山霊光館・成田市立下総歴史民俗資料館・八千代市郷土博物館
我孫子市教育委員会・柏市教育委員会・香取市教育委員会・神崎町教育委員会・佐倉市教育委員会・酒々井町教育委員会・成田市教育委員会・八千代市教育委員会

凡例

- 1 本書は、平成23年度出土遺物巡回展「房総発掘ものがたり」の展示解説図録です。
- 2 展示資料は、会場によって異なります。また、本図録掲載された資料の中には、展示されないものもあります。
- 3 本書掲載の写真や挿図の提供あるいは転載については、本文中に明記しました。
- 4 本展覧会の企画は、管理普及部長加藤修司の総括のもと、普及資料課長栗田則久・上席研究員森恭一が担当し、実行委員会を経て確定しました。図録の執筆及び編集は栗田が行いました。

参考文献

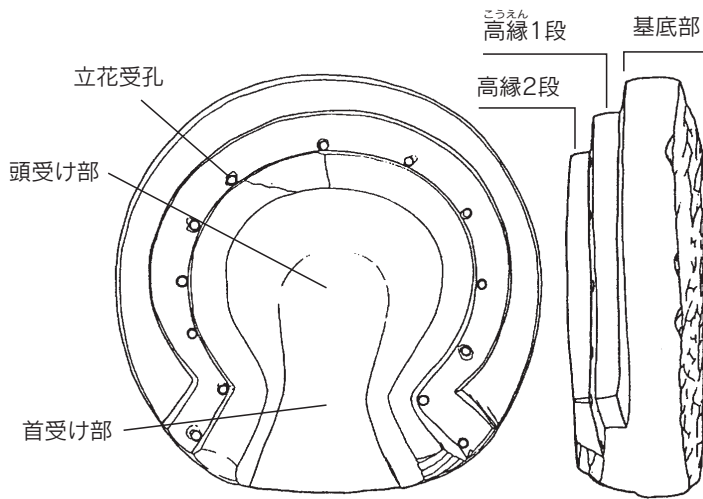
甘粕 健ほか 1969『我孫子古墳群』東京大学文学部考古学研究室
沼澤 豊ほか 1977『東寺山石神遺跡』(財)千葉県文化財センター
千葉県立房総風土記の丘 1979『日本の石枕』図録No.6
栗田則久 1982『千葉東南部ニュータウン13-上赤塚1号墳・狐塚古墳群-』(財)千葉県文化財センター
渋谷興平ほか 1982『堀之内遺跡』堀之内遺跡発掘調査団
原田 享二ほか 1987『佐原市内遺跡群発掘調査概報Ⅱ』佐原市教育委員会
(財)香取郡市文化財センター 1993「小野小仲内遺跡」『事業報告Ⅱ-平成2・3年度』
古谷 毅ほか 1993『柏市史調査研究報告Ⅲ-弁天古墳発掘調査報告書-』弁天古墳発掘調査団
坂本行広ほか 1995『猫作・栗山16号墳』(財)香取郡市文化財センター
岡山大学博物館 1998『博物館資料図録』
千葉県 1998『千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)』
白井久美子 2002「常総の内海をめぐる石枕と立花の時代」『古墳から見た列島東縁世界の形成』千葉大学考古学研究叢書2
千葉県 2003『千葉県の歴史 資料編 考古2(弥生・古墳時代)』
千葉県 2004『千葉県の歴史 資料編 考古4(遺跡・遺構・遺物)』
鬼澤昭夫 2005『北の内古墳』(財)香取郡市文化財センター
仲村元宏 2011『台方宮代遺跡(2)』(財)印旛郡市文化財センター
根本岳史 2011『船形手黒1号墳』(財)印旛郡市文化財センター

今からおよそ1,600前の古墳時代中頃、下総地域を中心に「石枕」という特徴的な遺物が古墳への埋葬に使われるようになりました。全国では、120例ほどありますが、そのうちの約半数は千葉県内から発見されており、まさに、石枕集中地帯といえましょう。

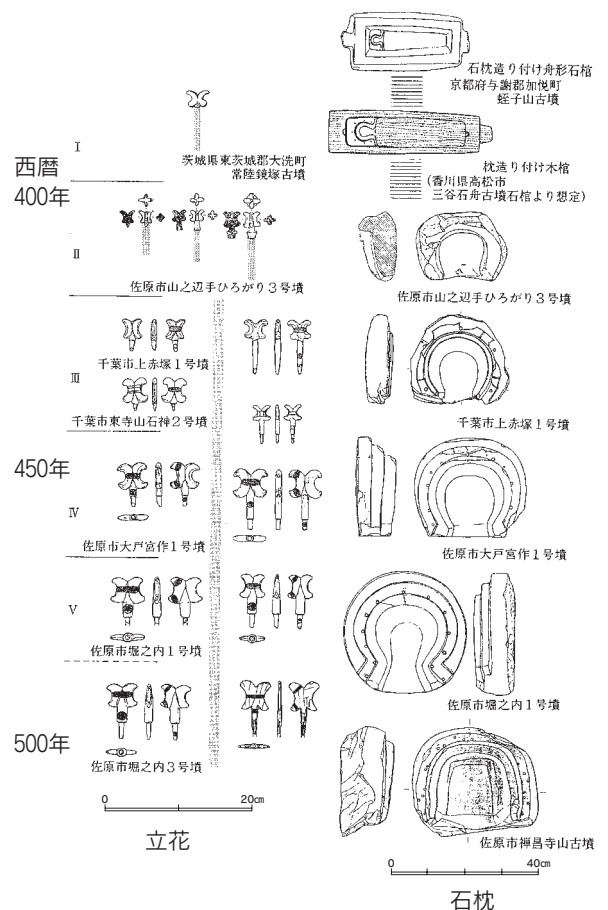
房総に集中する石枕も、古墳時代前期に西日本で展開する石枕を造り付けた石棺をモデルとして独自に展開していったことが考えられています。今回、5世紀の前半頃に始まり、6世紀の前半頃で姿を消すまでの約100年間のみに使われた県内の石枕を中心に紹介します。



主な展示遺跡



我孫子市金塚古墳
石枕各部の名称



石枕
立花
石枕・立花の移り変わり
(白井久美子2002より加筆・転載)

古墳時代の香取海

か
と
り
の
う
み

香取海のなりたち

江戸時代に利根川が改修され、現在の流路になるまでは、霞ヶ浦や印旛沼・手賀沼がひと続きの内海となっていました。713年に編纂された『常陸国風土記』によると、香島郡の位置を、「……南は下総と常陸の国境の安足の湖、西は流れ海……」としています。また、香取神宮の摂社である側高神社の伝承に、「香取の神の命により陸奥より馬二千匹を捕らえて戻ったところ、陸奥の神が追いかけてきたため、側高の神は潮干珠で潮を引かせ、馬を下総の地に渡らせた。その後、今度は潮満珠で潮を満たし、陸奥の神が追いかけて来ないようにした。」とあります。

このようなことから、下総国と常陸国の境には大きな内海が存在していたことを示しているようです。

香取海の文化圏

この内海周辺には、多くの貝塚や古墳など、古くから香取海や流入する河川を使った水上交通を通じた独自の文化圏や経済圏が形成されていたことが考えられています。

特に、石材の産出が少ない房総では、石器や石棺などの供給を、北関東に頼っていることが、石材の鑑定などから明らかとなっています。これらの石材も香取海や河川を利用して持ち込まれたのでしょうか。

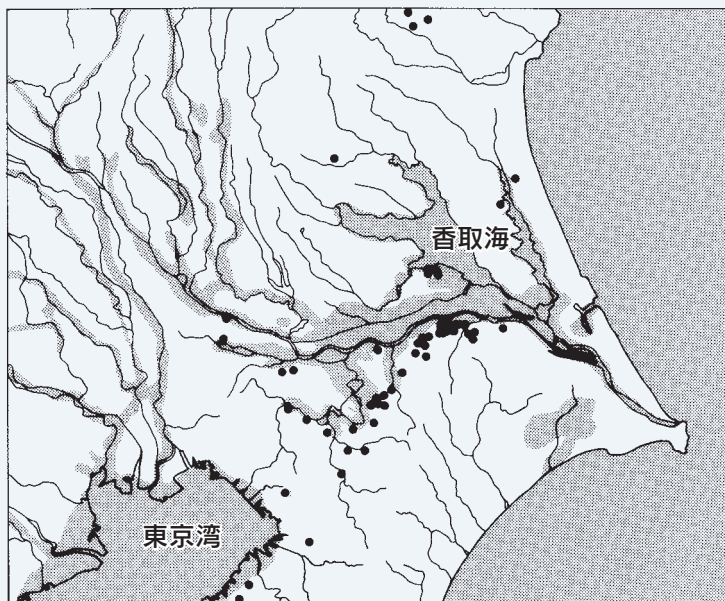
今回ご紹介します「石枕」のほとんどが、この香取海周辺から発見されており、「常総型石枕」という名称も与えられています。



空から見た古代の房総
（『千葉県の歴史』1998より転載）
（衛星写真提供：東海大学情報技術センター
画像処理：トリプルアイ）



縄文時代前期（約5,500年前）の海岸線と主要遺跡の分布（松戸市立博物館常設展示図録1994より転載）



常総地域の石枕出土地点分布

特徴的な形の石枕を使用した埋葬方法は、房総で突然発生したのではなく、その背景にはやはり西の文化を考えることが必要です。

この点で、古墳時代前期に西日本を中心に分布する枕造り付け石棺の存在が注目されます。特に、香川県や熊本県に分布の集中がみられます。これは、通称讃岐石と呼ばれる凝灰岩や阿蘇溶岩などの石材の産地が近くにあったことが主な要因と考えられます。

時期的には、4世紀中頃に枕造り付け石棺の盛行があり、5世紀になるとほとんど姿を消すよう

になります。すなわち、房総で石枕が採用される段階には西日本ではこのような埋葬方法は衰退していたことを示しています。

奈良県天理市渋谷出土の単独の石枕は、渋谷向山古墳出土の可能性も含めて前期後半と考えられています。このような単独石枕が奈良県や兵庫県の日本海側に少ないながらも存在していることは、5世紀段階に房総で単独の石枕が採用される要因として、畿内などの影響が強かったのではないのでしょうか。



常総地域以外の石枕関連遺跡分布



岡山県備前市新庄天神山古墳出土石枕
(岡山県立博物館提供)



奈良県天理市渋谷出土石枕
(関西大学博物館1998より転載)



兵庫県豊岡市中ノ郷・深谷古墳群2号墳(豊岡市出土文化財管理センター提供)



熊本県玉名市院塚古墳石棺と石枕
(熊本市立熊本博物館提供)

東京湾の石枕—千葉市

石神2号墳

墳丘の直径25m前後の大きさの円墳で、墳頂部に長さ6.8mほどの木棺が置かれていました。その木棺内部の両側から、向き合うように石枕が2点出土しています。

頭を載せる枕が2个体あるということは、埋葬された遺体が2体あることを意味しています。この古墳を分析・報告した沼澤豊氏は、立花などの石製品に付いたキズから注目される見解を示しています。このキズを専門家に鑑定依頼したところ、本来は森林などに棲息し、人家などでは天井裏などに活動するクマネズミの歯の噛み跡であることが明らかとなりました。この噛みキズは、埋葬された木棺内で付けられたというよりも、地上で付けられた可能性が高いとしています。沼澤氏はこのような状況から、埋葬する前の段階にかじられたキズであり、それは「モガリ」儀礼を示すものであるという解釈を発表しました。

『魏志倭人伝』や『日本書紀』などに殯（モガリ）に関する記載があり、文献史料からはその内容を知ることができますが、考古学の側から「モガリ」についての実態を言及した例として注目されています。



東寺山石神遺跡全景



埋葬施設遺物出土状況



立花・石製模造品・鉄製品
(国立歴史民俗博物館所蔵)



石枕
(国立歴史民俗博物館所蔵)



立花に付けられたネズミの噛み跡
(沼澤豊1977より転載)

上赤塚1号墳

墳丘径31mほどの円墳で、墳頂部に2基の木棺が並べられていました。その内の1基の木棺から石枕や立花、農工具などの石製模造品が多くみつかっています。ここから発見された石枕は特徴があり、基盤面に鍵手文と呼ばれる特殊な文様が浮き彫りされています。

石枕に伴う立花は、合計6個出土しており、立花を差し込む孔よりも多い数です。中には、石枕の頭を載せる部分や底面の下に残っているものもあり、遺体を埋葬する際に孔の中に立花を差し込んでいないことが明らかとなりました。



古墳全景



埋葬施設



石枕周辺遺物出土状況



石枕 (財団法人千葉県教育振興財団保管)



立花 (財団法人千葉県教育振興財団保管)

七廻塚古墳

墳丘径54mの大形の円墳で、3基の埋葬施設が確認され、あまり類例のない文様で構成された腕飾形石製品や立花、刀子などの石製模造品がみつかっていますが、石枕は確認されていません。茨城県東茨城郡大洗町常陸鏡塚古墳のように、石枕を伴わずに、立花のみが副葬される例は、石枕出現以前の古い様子を表していると考えられることから、立花を用いた埋葬方法の初期、上赤塚1号墳より以前の5世紀初め頃の前古墳と思われる。



遺物出土状況
(『千葉県の歴史』2003より転載)



腕飾形石製品



立花・石製模造品
(千葉市教育委員会所蔵)
(千葉市指定文化財)

東京湾の石枕—市原市

姉崎二子塚古墳

東京湾に注ぐ養老川流域最大の古墳群として知られる姉崎古墳群中にある全長114mの大型前方後円墳です。5世紀前半頃の海上国を代表する首長墓と考えられています。

前方部と後円部の両方に木棺直葬と思われる埋葬施設があり、後円部からは銅鏡3枚、立花4点、前方部からは石枕1点、銀製耳飾り2連などが見つかっています。石枕は良質の滑石を用い、2段の高縁と側面及び背面に直弧文が彫り込まれています。きわめて丁寧な研磨が加えられ、全体に装飾性を帯びた完成度の高い優品です。



銀製耳飾り
（『千葉県の歴史』2003より転載）



石枕（国指定重要文化財）・銀製耳飾り
（複製展示、原品（立花含む）國學院大學所蔵）



古墳全景（横から）
（『千葉県の歴史』2003より転載）



古墳全景（上空から）
（『千葉県の歴史』2003より転載）



立花
（『千葉県の歴史』2003より転載）



市原市柏原出土石枕
（『千葉県の歴史』2004より転載・個人蔵）

柏市弁天古墳

全長35mの前方後円墳で、後円部に長さ5mほどの木棺直葬の埋葬施設が1基存在しています。内部からは、石枕1点、立花9点の他、刀子などの石製模造品、大量の白玉が出土しています。

石枕は滑石製で、13カ所の立花受孔が掘り込まれています。

出土した遺物などから、5世紀中頃の古墳と考えられます。

石枕を出土する古墳は円墳がほとんどですが、この古墳は前方後円墳の例として注目されます。



石枕等出土状況
(柏市教育委員会提供)



立花(上段)・石枕(下段) 石製模造品等
(古谷毅他1993より転載・柏市教育委員会所蔵)
(柏市指定文化財)

我孫子市金塚古墳

直径20mほどの円墳で、石枕1点、立花1点の他に、武具である短甲や埴輪などが発見されています。

埴輪が伴うことから、石枕出土古墳の中では新しい時期と考えられ、6世紀初め頃のものと考えられています。



石枕等出土状況
(甘粕健他1969より転載)



石枕と立花
(我孫子市教育委員会提供・所蔵)

成田市の石枕1

台方宮代遺跡

遺跡内に3基の古墳があり、南北25m、東西21mの円墳である1号墳から石枕が出土しています。墳頂部に2基の埋葬施設があり、北側の2号施設から石枕1点の他に、刀子形の石製模造品や多くの白玉が見つっています。

石枕は、1段の高縁を持ち、7カ所の立花受孔が開けられています。この埋葬施設からは立花

が確認されていません。また、裏側には頭と首を載せる部分を粗く削った跡が残っています。おそらく、石材の大きさが十分ではなく、製作途中で断念し、反対側を彫り直したものと思われます。

石枕の製作には、石材の大きさによる制限があったことを示す興味深い資料です。



台方宮代1号墳埋葬施設



石枕(裏)

(財)印旛郡市文化財センター提供・成田市教育委員会所蔵



石枕(裏)

船形手黒1号墳

直径25mほどの円墳で、墳頂部から2基の埋葬施設が検出され、第1施設から、石枕1点と立花4点及び多量の白玉が、第2施設からは銅鏡1面などが出土しています。

石枕は、2段の高縁を持ち、1段目の平坦面に10カ所の立花受孔と1カ所の小さな孔が掘り込まれています。全体に丁寧な調整が加えられています。立花は4点出土し

ていますが、石枕の孔の数とは一致していません。

5世紀前半頃の古墳と考えられます。



石枕



石枕出土状況

(財)印旛郡市文化財センター提供



立花

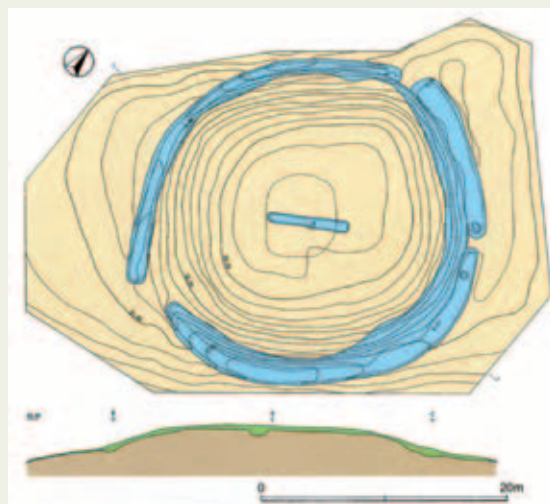
(成田市教育委員会所蔵)

猫作・栗山16号墳

前方後円墳3基を含む総数56基の古墳で構成される猫作・栗山古墳群中にある16号墳は、直径23mほどの円墳です。

長さ7mほどの木棺直葬の埋葬施設内から、3点の石枕と立花、石製模造品、多くの白玉などが出土しています。石枕は、木棺の北側・中央・南側に置かれ、それぞれに立花や石製模造品などが伴っています。石神2号墳と同様にモガリの儀礼を経た後に3人一緒に埋葬されたと考えられています。

北側石枕の基底部平坦面右側には、部分的に鋸歯文が刻まれています。石枕に文様が見られる例は、県内では東京湾岸の千葉市上赤塚1号墳と市原市姉崎二子塚古墳にあり、多くの出土例がある香取海周辺ではこの古墳のみにしか確認されていません。



古墳全体図
 (『千葉県の歴史』2003より転載)



埋葬施設内石枕出土状況 (『千葉県の歴史』2003より転載)



北側石枕
 中央石枕
 南側石枕
 (『千葉県の歴史』2003より転載・成田市教育委員会所蔵)
 (県指定有形文化財)

成田市の石枕 3

瓢塚32号墳

瓢塚古墳群は、成田ニュータウン地区に広がる公津原古墳群に含まれます。50基ほどの古墳で構成され、その中の32号墳は直径27mの円墳で、墳頂部に2基の埋葬施設があり、1基から石枕が1点確認されました。2段の高縁があり、1段目に9個の立花受孔が設けられています。立花や石製模造品は伴っていません。5世紀後半頃のものと思われます。



石枕

(『千葉県の歴史』2004より転載・千葉県立房総のむら所蔵)

小野小仲内遺跡

遺跡内の2号墳は、直径15mほどの小形の円墳で、墳頂部の埋葬施設内から石枕1点の他、鉄鏃や勾玉などが出土しています。

石枕は、全体に粗い作りで、高縁外側がかなり狭くなっています。立花受孔は、密に11カ所確認されますが立花は出土していません。

5世紀後半頃のものと考えられます。



埋葬施設状況

(助香取郡市文化財センター1993より転載)



石枕

(成田市教育委員会所蔵)



曽根古墳出土石枕

(成田市教育委員会所蔵)



芦田出土石枕

(成田山霊光館所蔵)



成田市内出土石枕

(成田山霊光館所蔵)

北きたの内うち古墳

南北 20 m、東西 14 m ほどの方形あるいは長方形の古墳と考えられています。2 基の埋葬施設が墳頂部に掘り込まれ、2 号施設から、石枕 1 点、立花 5 点の他、刀子などの石製模造品や多量の白玉ちやくとうなどの副葬品ふくそうひんが発見されています。

石枕は 1 段の高縁を持ち、5 カ所の立花受孔と、4 カ所の副孔がほぼ等間隔で開けられています。5 カ所の立花受孔のうち、3 カ所で立花の軸部が折れた状態で残っていました。立花が孔にささった状態で出土することはほとんどありませんが、ある時点で石枕に立花が装着されていたことを示す資料として注目されます。



埋葬施設状況



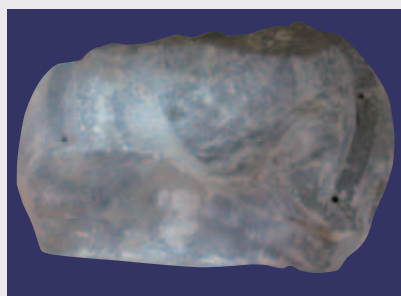
石枕周辺遺物出土状況
(鬼澤昭夫2005より転載)



石枕と立花
(鬼澤昭夫2005より転載・神崎町教育委員会所蔵)



石製模造品・白玉
(鬼澤昭夫2005より転載・神崎町教育委員会所蔵)



伝大貫古墳出土石枕
(神崎小学校所蔵)



佐藤古墳出土石枕
(千葉県立房総のむら所蔵)



植房浅間出土石枕
(千葉県立中央博物館所蔵)

香取市の石枕

山之辺手ひろがり3号墳

長辺30m、短辺14mの長方形古墳で、墳頂部に4基の埋葬施設があったとされ、3基の埋葬施設から、石枕1点と立花3点などが出土しています。石枕は、高縁及び立花受孔を持たない特異な形をしています。また、石枕の下から同じ石材の石片が3個出土し、うち1個は石枕と接合しました。一緒に見つかった立花は、4個の勾玉を立体的に背中合わせに組み合わせた形で、軸部内側は空洞となっています。このタイプは他に例のない特殊なものです。

県内の石枕を使った埋葬方法の出現期にあたる5世紀初め頃の古墳と考えられています。



石枕（『千葉県の歴史』2004より転載）



立花
（香取市教育委員会所蔵）



石枕と立花（堀之内1号墳）
（『千葉県の歴史』2004より転載）

堀之内1号墳

直径23mほどの円墳で、墳頂部に1基の埋葬施設があり、内部から石枕1点、立花3点などが出土しています。石枕は、2段の高縁と13カ所の立花受孔が開けられ、ほぼ円形の形をしています。

5世紀後半頃のものと考えられます。



彩色された石枕（禅昌寺山古墳）
（『千葉県の歴史』2004より転載）

禅昌寺山古墳

石枕は、1段の高縁を持ち、9カ所の立花受孔が掘り込まれ、12カ所の孔がかりょうがあります。全体に赤や緑あるいは白色の顔料が塗られています。石枕を使った埋葬の最後の段階にあたる6世紀前半頃のものと考えられています。千葉県内では最も新しい時期の石枕となるでしょう。



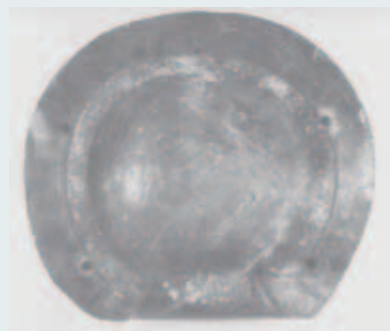
石枕等出土状況
（『千葉県の歴史』2003より転載）



石枕と立花（大戸宮作1号墳）
（原田亨二他1987より転載）

大戸宮作1号墳

長辺19m、短辺16mほどの長方形古墳で、墳頂部の埋葬施設から石枕1点、立花8点、石製刀子8点、多くの白玉などが出土しています。石枕は、2段の高縁を持ち、1段目の平坦面に12カ所の孔が見られますが、径の大きい9個が立花受孔と思われます。この古墳は、5世紀後半頃の築造と考えられています。



仁井宿十三塚出土石枕
（千葉県立中央博物館所蔵）



八千代市神野芝山4号墳出土石枕
(八千代市教育委員会所蔵)
(八千代市指定文化財)



酒々井町大鷲神社古墳出土石枕
(酒々井町教育委員会所蔵)



佐倉市先崎出土石枕
(佐倉市教育委員会所蔵)



佐倉市上勝田出土石枕
(国立歴史民俗博物館所蔵)

玉作り

玉作りは、弥生時代の管玉くだたまを主体とした製作から始まります。古墳時代前期になって関東地方にも玉作りが広がりますが、千葉県は開始が遅く、前期後半の4世紀代に見られるようになります。製作技法をみると、北陸地方から技術がもたらされたものと考えられています。

このような玉作りの技術を受けて、古墳時代中期、5世紀代に石枕や立花、各種の石製模造品やっしりが作られるようになります。その遺跡の分布は、成田市八代玉作遺跡群や大和田玉作遺跡群のある印旛沼東岸地域から東側の利根川南岸、すなわち、香取海南岸地域に集中する傾向が強くあります。他には、東京湾岸の千葉市から君津市にかけて点在しています。

石枕や立花及び石製模造品を出土した古墳の分布と石製模造品製作遺跡の分布がきれいに重なっており、石枕などの副葬品が近くの石製品製作工房で作られたことが想定されます。石枕や立花が製作遺跡から発見されたことはありませんが、高度な技術が必要であり、専門の工人が工房で作ったことは明らかでしょう。香取市山之辺手ひろがり3号墳からは、石枕とともに製作段階に生じたと思われる破片と一緒に埋葬されていました。このことや製作遺跡に未製品がないことなどを考え合わせると、石枕や立花は被葬者の注文によって製作された受注品であった可能性が高いと思われます。



玉作り・石製模造品製作遺跡分布図
(『千葉県の歴史』2004より転載)



成田市外小代遺跡の未製品類

玉作り



市川

千葉県 遺跡調査研究発表会

講演及び研究報告

平成24年1月21日（土）
午前10時30分～午後3時
会場：千葉県立中央博物館

当日先着受付(200名)

※詳細については
お問い合わせください。